

金鷹山

令和4年(2022)12月1日発行

通巻第16号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



宮司区伝統の亥の子

祭事の 予告

十二月三日(土)及び四日(日) 例大祭

三年振りに神輿を若宮広場の御旅所まで巡幸申し上げます
感染症の対策を講じて例大祭を斎行致しますが、お越しの際はマスクの着用をお願いします。
三七、五度以上の熱がある方の参拝はご遠慮願います。
尚、今後の感染症の状況及び社会情勢の推移により、予告の内容が縮小もしくは中止の場合
がありますので、お含み置き下さい。
予告変更の詳細につきましては、若宮八幡社の公式ホームページ等でお知らせ致します。

令和5年(2023年) 厄年早見表(男性・女性一覧)

男性 厄年			女性 厄年		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
平成12年生 2000年 (24歳) たつ	平成11年生 1999年 (25歳) うさぎ	平成10年生 1998年 (26歳) とら	平成18年生 2006年 (18歳) いぬ	平成17年生 2005年 (19歳) とり	平成16年生 2004年 (20歳) さる
昭和58年生 1983年 (41歳) いのしし	昭和57年生 1982年 (42歳) いぬ	昭和56年生 1981年 (43歳) とり	平成4年生 1992年 (32歳) さる	平成3年生 1991年 (33歳) ひつじ	平成2年生 1990年 (34歳) うま
昭和39年生 1964年 (60歳) たつ	昭和38年生 1963年 (61歳) うさぎ	昭和37年生 1962年 (62歳) とら	昭和63年生 1988年 (36歳) たつ	昭和62年生 1987年 (37歳) うさぎ	昭和61年生 1986年 (38歳) とら

アクセスマップ



Instagram

Instagramはじめました
ご覧ください

例大祭齋行

感染症の対策を講じて例大祭を齋行致しますが、お越しの際はマスクの着用をお願いいたします。三七、五度以上の熱がある方の参拝はご遠慮願います。尚、今後の感染症の状況及び社会情勢の推移により、予告の内容が縮小もしくは中止の場合がありますので、お含み置き下さい。

毎年、十二月の第一土曜日と日曜日の2日間行われる例大祭ですが、令和二年度、三年度の二年間は、折からの感染症対策の観点から神輿出御の中止を余儀なくされて参りました。

令和一年度(平成三十一年度)の所謂「御代替り」の年に神輿を巡幸されてより、神様を神輿にお遷し申し上げ、御旅所まで奉昇を行うことが二年度に亘り出来ませんでした。

この間、神社総代をはじめ関係者一同は忸怩たる思いでございましたが、過日「宰領会」を開催の上、一同慎重なる審議を行いました結果、感染症の対策を講じ乍ら下記にて例大祭を齋行する旨決しましたので、紙面をもちま



お下り 社頭を出御



お上り 御旅所を出御

して氏子崇敬者各位にご報告申し上げます。

また地元宮司区の支援を戴きながらコミュニティ助成事業の申請を三年度に亘り行っておりました処、杵築市当局のご指導のもと、本年度補助金を賜ることと相成り、その補助金をもちまして「神輿の修繕」・「お伴各位の衣装新調」などを実施することが出来ました。

久しぶりに神輿の出御を行う佳年と、この助成事業の実施とが一致するタイミングであることも、これ偏に関係各位のご協力の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

この補助事業につきましましては、次号(第十七号)に於きましてご報告申し上げます。

【例大祭の予定】

●十二月二日(金)

午後五時 前日祭

●十二月三日(土)

午前九時 例大祭

午前十時 神輿出御

午後一時 御前神樂奉納

※詳細は下記に記載

(神輿は御旅所に御宿泊)

●十二月四日(日)

午前六時 御旅所朝御饗祭

午後一時 斗初穂奉告祭

午後三時 神輿出御

「行列が本殿に向かう」

神輿が本殿に到着後

直ちに還幸祭を齋行

《神賑行事》

- ・ゲートボール大会
- ・グラウンドゴルフ大会

【御前神樂の勸奨について】

●日時 十二月三日(土)

午後一時から四時頃

1回の神樂が凡そ三十分のお神樂で、右記の時間内に随時奉納されます。

神樂の冒頭神職により祝詞を奏上し、申込者の氏名と住所(行政区)を神様にお取り次ぎ致します。

《荒神杖のお下がりあり》

●場所 若宮広場内の御旅所

●申込 神樂料一五〇〇円也

神社総代か神社にお申し込み下さい。神社 ☎0978(62)3148

以上、紙面に於きまして本年度の例大祭の予告を申し上げましたが、今後感染症の状況及び社会情勢の推移により、予告の内容が縮小もしくは中止の場合がありますので、お含み置き下さい。

※予告変更の詳細につきましては、若宮八幡社の公式ホームページ等でお知らせ致します。

若宮八幡社の信仰として、氏子の皆様方は御初穂のお供えをして参りました。昔はお米一斗の御初穂を十年間続けて奉納された方には石碑を参道に建立し、その志を永く顕彰して参りました。

現在では、お米一斗を三千元に換算し、十年を乗じた参萬円で完了しますが、最近では十年を待たずに、一括または短期間での納付される方も増えていきます。

この斗初穂の浄財は若宮八幡社の「斗初穂特別会計」で経理し、来たる令和十七年度(西暦2035年)の当社御鎮座一〇五〇年祭記念事業に係る社殿の修復また境内の維持管理のための特別な出費のために大切に活用させて頂くものであります。

斗初穂奉納の主旨をご賢察戴き、氏子崇敬者各位のお申込みを待ち申し上げます。

【照会先】若宮八幡社 0978(62)3148
または斗初穂会計総代 井上 剛(南台西区)まで



参道に立つ斗初穂芳名石碑



御旅所で奉納される御前神樂

この秋から暮れの神事について

明治天皇祭・地久祭・上皇陛下祭 新嘗祭に秋の実りを奉納しませんか？

【明治天皇祭】

十一月三日(木)午前六時

明治天皇のご聖徳を偲び奉り感謝申し上げる神事。毎日の朝御饗祭同様に神事に於いて「教育勅語」と「五箇条の御誓文」を奉読します。

【地久祭】

十二月九日(金)午前六時

皇后陛下の生誕日を寿ぎます。

【上皇陛下祭】

十二月二十三日(金)午前六時

上皇陛下の生誕日を寿ぎます。

これらの神事は、全て参列自由・無料(予約不要)

【七五三祝祭祈願】

……年内承っております。……

祈願料 五、〇〇〇円也

お子様お二人 八、〇〇〇円也

お子様お三人 一万円也

〈毎日午前九時から午後四時〉

三〇分ごとに貴家のみにて

祈願を厳修致しますので、事前の予約をお願い致します。

〈お下がり〉

●神札(お名前を揮毫)

●特製神社トランプ

●金鷹お守り

●千歳飴 ほか

申込み 0978(62)3148



【新嘗祭】
十一月二十三日 (水・勤労感謝の日)
四月六日の祈年祭でお願いした「秋の稔り」に感謝申し上げます。新嘗祭は、一般の方の参列は出来ませんので、あしからずご了承下さい。この新嘗祭を寿ぐ意味で、若宮八幡社では、氏子の皆様方からの秋の収穫物の奉納を承っております。奉納を承ります内容としては、①お米 ②野菜 ③果物 ④お酒 ⑤その他 です。

奉納戴きました方々の芳名は、令和五年四月一日に刊行します社報『金鷹山』第十七号にてご報告致します。尚、ご奉納戴きました収穫物は、神前に奉獻申し上げ、適宜参詣者に少ずつお頒ち致しますことをご了承下さい。



新嘗祭での奉納品の数々

これから正月を迎えるまでの、暮れに行われる神事をご紹介します。

〈年越大祓・としこしのおおはらい〉

十二月三十一日(土)午後三時

令和四年の下半期(七月から十二月)の半年間に知らないうちに犯してしまった罪や穢れを「人形・ひとがた」に託して清々しい令和五年の正月をお迎えになりますか？

今年の一年間を振り返るに、良いことも悪いことも色々とおありになったことでしょうか、古来より日本人には「水に流す」という大変素晴らしい言葉があります。過去を顧みることも勿論大事なことです。これから未来を見据えて前向きに捉えて元氣よく過ごしていくことも、我々には必要な習慣であると思います。

氏子崇敬者の皆様方の多数のご参列を、心よりお待ちしております。参列自由・無料・予約等不要です

【正月初詣】

「二年の計は元旦にあり」と言います。

若宮八幡社では、三が日は勿論のこと正月期間中また一年を通して、お守り・縁起物をお頒ち致しますと共に、個別の祈願を承っております。

「神宮大麻」をご存じですか？

令和四年は明治五年(1872年)に神宮大麻が全国頒布されるようになってから百五十年の記念すべき年です。

神宮大麻とは、家庭で皇大神宮のご神徳を仰ぎ、拝礼するための御神札です。

神宮大麻の「大麻」とは、本来「おおぬさ」と読み、神々への捧げ物、お祓いの際に用いられる木綿や麻を指します。

平安時代の終わり頃から、神宮と人びとの間を取り持つ御師と呼ばれる人たちが登場します。この御師が、参詣者のために祈禱を込めて配布した「御祓大麻」が伊勢の御神札の起源



神宮大麻

と言われています。

明治時代となり、日本が近代国家への道を歩むにあたり御師制度は廃止され、御祓大麻の配布も停止されましたが、人びとから「大神宮さまの御神札」を待ち望む声が沸き起こりました。

こうした声を受けて明治五年(1872年)、新たに「神宮大麻」を神宮司庁が奉製し、全国の家庭に頒布されることになったのです。

戦後は、神社本庁が神宮司庁より委託を受け、都道府県神社庁及び支部を経由して、全国の神社を通じて頒布しています。

この神宮大麻は、若宮八幡社は勿論のこと、地元区長様また総代により皆様方にお頒ちし



大晦日の年越大祓

ておりますので、年末の時期に新しくお祀りされることをお勧め致します。

新年を寿ぎ、初祈願も承ります。(祈願料五〇〇〇円也)

当社では、毎日午前九時から午後四時までの間、三〇分ごとに貴家・御社のみにて祈願を厳修致しますので、事前の予約をお願い致します。

〈お下がり〉

- 神札(お名前を揮毫)
- 若宮八幡社大麻
- 荒神大麻
- 金鷹お守り
- 一膳箸
- 撤下米
- 卓上破魔矢、伊勢曆
- 御神酒 ほか

申込み 0978(62)3148

仲秋祭齋行のご報告

若宮楽も心楽・端楽の子供たちにより奉納されました

去る九月十一日(日)に、午前十時から仲秋祭が齋行されました。

仲秋祭は、親神様である京都石清水八幡宮の勅祭を壽ぎ齋行される神事で、昔はこの日に「放生会」や「流鏝馬」なども行われた記録があり、「市」も開かれていたことから「楽の市」とも称されております。

以前は勅祭日と同じく九月十五日の齋行でしたが、敬老の日が第三月曜日になり、午後からの「若宮楽」は子供たちが奉納することを鑑みて、学校を休まなくても奉納戴けるようこの数年は十五日に近い日曜日となりました。

神事におきまして、若宮八幡社総代をはじめ、区長会の代表また若宮楽保存会の参列を賜り、午後からの若宮楽の成功と秋の稔りに感謝申し上げます。

午後二時からは、大分県無形民俗文化財である「若宮楽」の奉納がありました。

この日のために、北杵築地区と宮司区の子供たちは一所懸命に、それぞれ北杵築地区コミュニティセンターと宮司区公民館で練習に励み、保存会の会長である小春稔氏の懇切なるご指導のもと無事に若宮楽が奉納されました。

約二十名の子供たちは、中心的な役割を担う「心楽」に、宗近中学校一年生の森悠真君と矢野孝祐君の二人と、周りを「端楽」の子供たちで構成されておりました。

夏休みの練習成果として神様に奉納されましたこと厚く感謝申し上げます。前号(第十五号・九月一日号)の寄稿文にて、鴨川在中の西豊之輔氏が記されておられるように、地元の子供たちの人数減少に伴い、奉納する心楽と端楽の確保には毎年関係者一同苦慮しておる処です。保護者また学校関係者各位には、この大分県無形民俗文化財の主旨を賢察になり、来年度以降も末永く伝統文化が護持されますようご協力のほどお願い申し上げます。

将来的には、「若宮楽」また「御田植祭」を守り伝える為にも、記録本とDVD映像などを作成したいと考えております。



奉納された若宮楽



奉納後の集合写真

【観月祭齋行のご報告】

去る十月十日(月・スポーツの日)午後五時より若宮八幡社の本殿に於きまして、観月祭を齋行致しました。

観月祭とは、お米や野菜果物などの通常のお供え物に加えて、「雅楽」という音楽を神様に奉り、御心を慰め申し上げる神事です。

折しも杵築市の街中でも「観月祭」というイベントが十月八日(土)及び九日(日)の二日間に亘り開催されましたが、残念ながら雅楽の演奏は中止となつたようですが、当社では暦通りに満月の夕刻に観月祭を取り行いました。

この日に向けて七名の氏子さんが「龍笛」の研鑽に励まれており、神事に於きましても紀田宮司と共に立派な雅楽の演奏が出来ましたこと、教える立場としても洵に心を打たれるものであります。

紀田宮司も左記の記事にもありますように、雅楽・祭祀舞の講習を受けて研鑽して参ります。

【紀田宮司県外向受講習報告】

①祭祀舞講習会(浦安の舞)

福岡県神社庁にて八月十七日〜十八日の二日間受講。

浦安の舞は、昭和天皇の御製を基に作舞されたもので、八百萬の神々の御徳を戴き、世界平和を祈念する舞です。宮司は数

年間に亘り受講、舞を習得し、氏子の女の子と共に研鑽し、若宮八幡社の神事に於いて奉納戴くよう計画しております。

②九州雅楽講習会

福岡県香椎宮にて九月七日から九日の二日間受講。

元宮内庁式部職楽部首席楽



香椎宮での奉納奏楽 前列左から2人目が宮司です

昭和天皇御製

天地の神にぞ祈る 朝風の

海に如くに 波立たぬ世を

【次回、第十七号の予告】

令和五年四月二日に新聞に折り込みます

(但し、杵築地区・北杵築地区に限定です)

予告①令和四年新嘗祭に奉獻のご報告(芳名)

・秋の豊穰に感謝の気持ち

予告②令和四年例大祭のご報告

・神輿出御と神賑行事

・コミュニティ助成事業について

予告③令和五年正月初詣の社頭状況のご報告

・初詣に来られた善男善女

予告④令和五年四月六日(木)

・祈年祭及び御田植祭の予告

・西豊之輔氏の寄稿文掲載(その2)

予告⑤令和五年六月三十日(金)

・夏越大祓・人形昇神祭の予告

予告⑥若宮八幡社の古記録

・記念事業の一環として当社の歴史を紐解きご紹介を致します

あくまでも予告ですので、掲載内容が変更になる可能性もありますのでご了承下さい